

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2673200263 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 洛和福祉会 | | |
| 事業所名 | 洛和グループホーム京田辺 | | |
| 所在地 | 京都府京田辺市興戸郡塚57-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年10月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年1月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2673200263-00&PrefCd=26&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成26年11月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が個々にできる事・できない事を全職員で話し合い できる所が維持できる様に見守り関わっている。
また、地域との関わりも重点を置いている。夏祭りでは地域の方約100名が来られ金魚すくいやビンゴゲームを楽しまれる。この地域にはGHの夏祭りを楽しみにしている方が多数おられる。GHの畑には畑ボランティアさんが来て利用者と共に農作物を管理していただいている。地域もGHも共に支えあっていくように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、自然に恵まれた環境や子供達の通学路になっている住宅地に立地し、地域住民との繋がりを大切にしています。ホームで行う夏祭りは地域に浸透し、また、月1回行う地域に向けて行う「なごみカフェ」の開催は、子供達から伝わり来訪者が増えるなど交流の場が広がっています。「楽しく支え合い生きる」と掲げた理念の原点を踏まえ、全職員が統一したケアを実現する為に3つの目標を立て、意識して日々のケアを実践しています。職員は尊厳を守るケアや笑顔での対応を心がけ、利用者の側でゆったりと寄り添い、家庭的な雰囲気の中で利用者が生き生きと力を発揮し支え合う暮らしができるよう日々の支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念のもとに、「楽しく支え合い生きる」事を職員で考えホームの理念として定めている。職員間のみならず地域に向けても共に支え合う精神で取り組んでいる。 | 法人の理念を基に職員で考えたホーム独自の理念を「楽しく支え合い生きる」と掲げ、リーダー研修時や朝夕の申し送り等で唱和しています。理念は常に大切な原点として共有し、具体的な目標も作り日々のケアの中で実践しています。現状に即した目標となるよう見直しもしています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方々と道で会えば挨拶し、朝の登下校の際 子供たちにも声を掛けている。また、ホームの畑に週1回ボランティアさんが来訪。行事等にも参加して頂き交流の場となっている。 | 月に1回地域の方に向けて喫茶を実施し、来ている子供から伝わり近隣の子供達の来訪が増え、また、ホーム主催の夏祭りは地域に密着し、地域との交流の場となっています。週1回畑の作業にボランティアが来る他、三味線やフラダンス、傾聴、民謡のボランティアの方も訪れています。京田辺の祭りや盆踊りに出かけています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 年に一度 認知症サポーター講座を実施し認知症の方の理解に努めている。又 月に一度、地域の方に向けて喫茶を開催し交流を図る場をもち、認知症の理解に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家人・民生委員・地域包括支援センター職員が参加し2ヶ月に一度行っている。ホームでの行事や状況を伝え、市役所・民生委員・地域包括の方と情報交換している。また、訪問看護師の参加や昼食会などを行い参加人数が増える取り組みを行っている。 | 地域包括支援センター職員、市担当職員、民生委員等の参加の下、2か月に1回開催し、事業所の近況報告と行事の報告後に意見交換を行っています。水害について市から報告があり、議事録は家族に送付し内容を伝えています。 | ホームの現状を知ってもらえる会議に家族の参加が得られておらず、参加してもらいやすい工夫等を検討されてはいかがでしょうか。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域密着合同会議が定期的に行われている。又市の職員も参加され、京都市のグループ協議会でのネットワークなどについて話され学ぶ機会となっている。 | 運営推進会議に市職員の参加があり、実情を知ってもらっています。市が実施しているボランティアのポイント制度の報告に市へ出向いたり、研修の案内が届いた時は参加する他、市職員の参加がある年4回の地域密着型サービス事業所の会議に出席し情報交換しています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は施錠せずに玄関は開放されている。リビングからは玄関が良く見え開放的な作りになっている。外に出られる利用者にも後ろからそっと付き添い見守っている。職員も身体拘束については繰り返し研修が行われている。 | 身体拘束について法人の研修に参加し、伝達を行い全職員に周知しています。玄関のセンサーを外した事で職員は全体を見守り、安全に暮らせるよう支援しています。外出したい様子が見られたら職員が付き添い、気分転換をしてもらい、行動を止めるのではなく行動の理由を考え利用者の思いに添えるよう支援しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 社内研修に参加し虐待について学んでいる。また、入浴時等にアザや傷ができていないか確認し注意を払っている。 | | |

洛和グループホーム京田辺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 毎年研修が年1回開催され学ぶ機会になっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時には、説明し契約している。入居1ヶ月で家族に入居時の説明等のアンケートをとり、退去時にも同様アンケートをとっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族・職員にアンケートを実施している。要望等があれば記入して頂き運営に反映させている。 | 年に一回、事業所から家族へアンケートを実施したり、面会時には日頃の状況を伝え意見を聞いています。電話や毎月手紙や写真を送付し意見を出しやすい工夫し、介護計画の作成時に聞いた要望は個別の計画に取り入れています。外出の回数を増やしたり、外でお茶を飲む機会を増やす等、出された意見や要望を取り入れサービスに活かしています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に一度のカンファレンス・アンケートの実施を行い職員の意見・提案を聞きケアに繋げている。 | 自己評価や法人による事業所評価の際に職員から意見を聞いたり、カンファレンスや全職員が利用者目線に立ったアンケートを実施し意見提案を出せる機会を作っています。出された意見や提案は実践し、結果を検討してケアに活かしサービスの向上に繋げています。また契約更新時に面談でパート職員の意見も聞いています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回事務申請書を元に面談を行い意見を聞いたり、日々の関わりの中から職員一人一人の状況を把握し、声かけを行う事で向上心を持って働けるように心がけている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 力量評価を実施し、力量の把握に努め研修参加を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域合同会議にて情報交換や他施設にも利用者と共に訪問又夏祭り等にも着て頂き交流の場となり、日々の質向上に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 日々関わる中で利用者の表情・言葉・行動を見ながら困っている・不安等職員で情報を共有し関係作りに取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時に家族の方に困っている事・不安・要望等を聞き又ケアプラン変更時に話をし関係作り努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | カンファレンスにて家族の要望を聞き、ケアプランについて検討、見直している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | できる部分を見極め、できる事はして頂き、できない事に対して援助し関わっている。又職員のできない部分を助けてもらいながら共に生活し関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時にはできるだけ会話し 利用者の日々の様子を報告 家族との関わりを大切にした入る。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会に来られて際、ゆったりと会話ができる環境や遠方に居られる方にはハガキなどを送り関係が途切れないように努めている。 | 催し物の案内をもらい同僚の集まりに職員の付添いの下参加したり、年賀状や手紙、電話でのやり取りを支援しています。住んでいた近隣の人の訪問がある時は居室でゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。家に行きたいという利用者の声を聞き、ドライブを兼ね自宅へ寄るなど、これまでの馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | できるだけリビングに出てきて頂き、職員も間に入りながら会話やレクレーションなど他の方と関われるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて連絡など行い 相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 定期的に、本人及び家族に希望を伺っている。 日々の記録から抽出して、相談している。 | 入居前の面談で聞いた様々な情報や本人や家族の希望を記載する独自の様式に思いを記入してもらっています。入居後は利用者の日常的な様子や表情、動作からも心情を汲み取り、職員間で話し合い把握しています。介護計画の見直しの際に再アセスメントや本人、家族の思いをカンファレンスで検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前・入所後に、センター方式にて情報を集めて、本人らしい生活の把握に努めている。 本人や家族からの聞き取りにて、情報収集を行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々のケース記録や24時間シケアシ記録等を活用し、現状把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 希望用紙と言う形で、本人・家族、及び関係機関(医師や看護師)より意見をまとめて、介護計画に反映している。 | アセスメントや本人・家族の思いや意向を基にカンファレンスを行い介護計画を作成しています。定期的に行うモニタリングでは、あらかじめ計画作成者が実施状況や評価を確認し、職員の意見も聞き6ヶ月から1年で再アセスメントやカンファレンスを行い介護計画を見直しています。見直し時には事前に聞いた協力医や訪問看護師の意見も介護計画に反映させています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録に記載し、引継ぎ時に申し送っている。 定期的な見直し時に再検討している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 喫茶や図書館、自宅の様子を見に行く等、必要に応じて援助を行っている。資格試験の付き添いなど(一緒に)行っている。 | | |

洛和グループホーム京田辺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域住民(ボランティア)・消防署職員や図書館等、様々な機関を利用して総合的に援助している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的に、今までの医療機関を継続利用して頂いている。特に希望が無い場合は、当事業所と契約している医療機関に協力を得ている。専門医療機関は、在宅時にかかっている医療期間の継続利用が多い。(歯科・眼科など) | ホームの協力医への変更やこれまでのかかりつけ医を継続出来る事を説明し、全員の方が協力医を選択しています。協力医の往診を月に2回受け、往診医とは随時連絡が取れる体制があり、訪問看護師との連携も図られています。外部の専門医へは職員も通院の支援をし、受診結果等の情報は家族とも共有しています。入居時に無料の歯科訪問を受け、その後は希望者が治療や口腔ケアを受けています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に一度、看護師に相談する機会があり、その際に報告・相談・指導の機会がある。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 法人として、地域連携課職員(対外活動専門職員)を配置し、また管理者や計画作成者も医療機関相談員と密に連絡を取る様に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に『みとり』について説明を行っている。該当ケースが発生した場合は、環境を整えて終末期対応ができる様に、と言うのが法人として基本方針である。 | 契約時に法人としての重度化の対応の指針やホームで行える看取りの支援について家族に説明しています。重度化した際には状況は都度説明を家族にし、看取りを希望する場合、カンファレンスで医師の意見や家族の意向を聞き、ホームで出来る限りの支援をしています。医療的な支援が必要な時は、家族とは他施設への転居の含め話し合い対応しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的な研修参加及び、法人共通のマニュアルに沿った対応を行うようになっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練・消防訓練を隔月に行い、災害に備えている。 | 年に2回消防職員立ち合いの下、夜間想定で避難訓練を実施し、通報や初期消火、避難誘導の訓練を行い、受けた指導は次回の訓練に活かしています。2か月に1回行う自主訓練は昼間を想定し、利用者を避難場所へ誘導する時間を計り、全職員が避難方法を身につくよう訓練を行っています。地域の方へ訓練の参加を継続的に呼び掛けています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 事業所としての理念を設けて利用者の対応に配慮している。 勤務に入るたびに、理念の唱和と実践を行っている。 | 法人で年1回人権についての研修があり、職員はプライバシーや尊厳について学んでいます。職員は笑顔で利用者と目線を合わせ、自分の親に置き換え意識した対応を努めています。不適切な対応があれば、その場や個人面談等で話し合っています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | オープンクエスチョンやクローズドクエスチョン等、質問の仕方・時・場合等に配慮して援助している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースに準じた生活が過ごせるように、まずは本人の生活リズムをリサーチする援助を行う。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 年に何度か、本人に似合うような服をプレゼントする機会がある。家族に着慣れた服を持参してもらっている。隔月の訪問理美容も活用している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 本人に尋ねたり食物残渣の量から好みを調査している。 準備・片付けは、利用者に応じて一緒にやっている。 | 利用者の食べたい物の希望を聞き、毎週に職員が献立を決め、利用者と買い物に行くこともあります。菜園の野菜を活用したり、おはぎ作りやゴマを搗る等、利用者は出来る事を行っています。誕生日には希望に沿った献立や家族を呼んで鍋パーティーを計画する等、行事食は趣向を凝らしています。外食の楽しみや一緒に職員も食事を摂り、会話を楽しみながら利用者からの味付けの評価を受け、楽しい団欒のひとつとなっています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事形態や摂取量は個人によって変更している。また、変化が認められる場合は申し送りにて、後の勤務者に引き継ぎ対応している。排尿状況などとも連携して、水分摂取に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 起床時・食後等、口腔状態に合わせて、歯ブラシやスポンジ・拭き取りシートなど、必要に応じて対応している。 | | |

洛和グループホーム京田辺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄表にて個人の排泄間隔を把握するように努めている。利用者のサインを読み取り、適宜排泄誘導を行なっている。 | 排泄チェック表を参考にして個々の習慣やパターンを把握し、表情や行動のサインからも察知して声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。退院後のおむつ使用を止めたり、夏は布の下着へ変更し、夜間もトイレ誘導を行う等、自信の回復や気持ちよく排泄できるよう支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 利用者の体質把握に努め、バナナや牛乳と言った食品を摂ってもらい対応している。緩下剤を服用する場合もあるが、水分摂取に気をつけた対応、またトイレに座って排泄体勢になれる様に援助している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の希望やその方に合わせた時間に入浴の援助している。 | 入浴は2日に1回、利用者に入りたい時間を聞いて入ってもらっています。1人で入りたい方には配慮したり、ゆずや入浴剤を使った季節湯の他、好みの石鹸や化粧水を使う方など、入浴を楽しんでもらっています。会話をしたり歌を歌いながらゆっくりと入浴が出来るよう支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の休憩(臥床)する時間や、就寝時間は個人で様々である為、沿った対応を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方ごとに、薬の説明シートに目を通して確認している。利用者の服用し易い形態を考慮して、錠剤・顆粒・細粒と変更している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴から役割・楽しみごとを模索し、活動表などにも取り入れながら気分転換の場を提供している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 希望により、買い物や図書館・喫茶などに出かけている。また、資格試験の為に年に一度、京都市内に一日掛けて出かけている。 | 日々、近隣を散歩したり、ドライブに出かけています。外に置いているベンチや畑に行く等、個々に応じて出来るだけ戸外で気分転換を図れるような支援に努めています。桜の季節にはドライブで様々な所へ花見に出かけたり、喫茶店や趣味の京都検定試験を受けに行く方等、個別の外出支援が継続できるよう努めています。 | |

洛和グループホーム京田辺

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理してもらっている利用者もあり、買い物時はおやつ等を買える様に支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は自由に使え、深夜帯以外は使ってもらっている。家族からの手紙に対して、返事を書けるように、職員が支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や行事の写真等を掲示して、季節に応じたコーディネートを行っている。室温・湿度計、遮光カーテン・TVの音など、刺激になり過ぎないように配慮している。 | 畑で季節の花や野菜を育て、玄関や共有空間の随所に花を飾り季節感を感じてもらっています。居心地よく過ごせるようソファやテーブルの配置も工夫し、和室に置かれた円卓の側で洗濯物を畳んだり、食事つくりの音や匂いのする中で家庭的な雰囲気作りをしています。清掃や清潔、湿度対策にも心がけ、利用者も玄関を掃く等出来る事に携わってもらっています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 仲の良い物同士、一緒のスペースで過ごせるように配慮したり、職員が仲を取り持つように援助している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 在宅時の使い慣れた家具・配置を配慮して、居室を過ごし易いようにコーディネートしている。 | 居室は押入れのある和室や洋室があり、布団を畳み押入れに片付ける生活を継続される方や使い慣れたベットや椅子、ワゴン等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう家族と配置を工夫しています。また、その人らしく思い思いに過ごせることを大切に、仏壇にお茶を供えたり、日記を付ける習慣を続けられるよう環境を整えています。衣替えは家族の協力もあり、タンスの中の整理や室内の清掃、換気にも気を配り、安全に安心して過ごせる居室となるよう配慮しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 日々の関わりの中でできる事・できない事を把握してできる部分にはご自身でして頂く援助を行い自立した生活が送れるようにしている。 | | |